



# JREU TOKYO 業務部速報



2026.06.09 No.051

発行：JR東労組東京地本 業務部

## 東地申第14号「上野統括センターにおける乗務ユニットの統合について」に関する説明申入れ団体交渉を行う(その③)

### 駅兼務その②からの続き

組合	会社
駅兼務で見習いの見極めがあるのか。	見極めはある。
現状、(他の職場も含めて)乗務員の駅兼務は希望者しか行っていない。希望の確認はするのか？	兼務希望の確認は行う。 <b>確認</b>

### 融合行路(田端駅における終電対応業務)について

組合	会社
引き続き融合行路は、毎日行うのか？	毎日設定し、1人は毎日担う。
行路に組み込むのか。	7月1日に乗務員行路の変更はないので、 <b>定期行路には組み込まない</b> 。田端が乗務している臨時に組み込む、変形にするなど考えているが、 <b>まだ具体的には決まっていない</b> 。
7月1日時点では誰が担うのか？	田端社員が先ずは担う。上野社員は先ずは線見指導を担い職場運用を優先する。担うときは教育を行う。
田端駅の終電対応そのものの必要性を疑う声も届いている。今後も必要なか検証を行って頂きたい。	了解。

### 〔確認事項〕

- 7月1日以降、駅兼務・融合行路は田端社員が担う。上野社員は線見含めて職場運用を優先する。
- 駅兼務・融合行路の見極めは駅管理者が行う。不安があれば見習い期間を延長する。
- 融合行路は必要性含めて検証する。

5.田端乗務ユニットが担当していた乗務業務の今後の運用方法について具体的に示すこと。また、施策実施後の上野乗務ユニットの業務内容を具体的に示すこと。

(回答)上野乗務ユニット及び田端乗務ユニットが狙っていた業務については、基本的に上野事業本部において担当する予定である。

組合	会社
回答にある「上野事業本部において担当する」を具体的にされたい。	現行、田端が乗務している範囲、上野が乗務している範囲。大きく変わる事はない。
DC 転換養成区として残るのか。	残る。転換の教育も行う。 <b>確認</b>
今後の尾久車両センター構内の入換業務の作業、行路運用方について。	引き続き残る。田端社員が先ずは担う。勤務は入換行路、若しくは変形となる。上野から便乗で向かう。
DC 担当を毎月予備に置くのか？	毎月 DC 乗務員は当面、数人予備に降る形になる。入換、DC 乗務員は施策実施時、田端社員が担う。 <b>確認</b>
上野の乗務員は希望すれば、入換、DC 乗務は出来るのか。今後は上野の乗務員から DC 養成をしていくイメージか。	任用の基準となる。養成のイメージとしてはその通りである。

その④へ続く